

■大学院 文学研究科 欧米文化専攻

教育研究上の目的
<p>大学院学則第2条 (目的)</p> <p>本大学に設置する大学院(以下「本大学院」という。)は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。</p>
<p>大学院学則第6条の2 (研究科及び専攻)</p> <p>修士課程においては、アメリカを含む西欧地域の文化について、思想・文学・言語の各分野における研究を行い、欧米文化の歴史とその現状、文化伝播と受容などを総合的に把握し、欧米文化の共通的特質を分析・解明することを目的とする。博士後期課程においては、修士課程の成果を踏まえてなお一層教育研究を深化させ、高度な専門性を必要とする職業を担う能力をつちかうことを目的とする。</p>
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)
<p>【修士課程】</p> <p>文学研究科欧米文化専攻修士課程では、愛知大学大学院学則に定められた各授業科目に割り当てられた単位数を合計32単位以上修得しなければなりません。研究方法論4単位、専修科目12単位(講義4単位、演習8単位)、その他講義科目から4科目16単位以上を修得することになっています。修士論文を書くに当たっては、1年次の10月に外国語認定試験の受験願いを提出し、それに合格した者だけに、修士論文執筆の資格が認められます。修士論文は英語と日本語のどちらで書いてもよいが、複数の審査員による論文審査と口述試問の厳格な審査を経なければなりません。</p> <p>上記以外に、学生各自の物事に対する探求心と知的好奇心を以て自主的な研究に励まなければなりません。以下はそれに即した学位授与方針です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 欧米文化に関する幅広い視野と識見を持ち、物事を主体的に判断する能力を持つこと。 (2) 欧米文化に関する知識と語学力とを活用し、専門的な職業人として社会に貢献できる人材たること。 (3) 欧米文化研究の深化と同時に、自主的に日本文化に対する造詣をも深くし、深く幅広い欧米文化の知識をもとに、日本文化の発展と向上に資する人材となる基礎能力を有すること。 (4) 欧米文化の研究を通して欧米人を深く理解し、平和に貢献できる見識を持っていること。 <p>【博士後期課程】</p> <p>文学研究科欧米文化専攻博士後期課程では、愛知大学大学院学則に定められた通り、指導教授に博士論文作成の研究指導を受け、授業科目の中からは専修科目を4単位以上を修得し、指導教授の研究演習4単位を修得しなければなりません。さらに各自学生は専門分野の研究のみならず、関連分野にも目を向けて幅広い知識と視野を体得し、専門分野の研究を客観的立場から研鑽できるように努めなければなりません。</p> <p>博士後期課程に3年以上在学し、この所定の単位を修得し必要な研究指導を受けた者は、博士の学位論文を提出できます。審査委員会は該当する科目又は関連科目を担当する教授3名以上からなり、論文審査、最終試験、並びに学力の確認を厳正に行ないます。以下は上記に即した学位授与方針です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 欧米文化に精通し、高度な専門的知識を駆使して、独自の視点から専門分野の研究を推進する能力を有すること。 (2) 日本の文化と歴史にも通暁し、欧米文化を客観的な立場から比較考察できる能力を有すること。 (3) 欧米文化の研究が自ずと日本文化の発展に寄与し得るだけの質と客観性を持つこと。
教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)
<p>【修士課程】</p> <p>文学研究科欧米文化専攻修士課程では、愛知大学大学院学則に示された教育目標を達成するために、教育課程の編成と実施方針を以下の通り定めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生達に思想、文学、言語学の各分野に関する専門的知識と幅広い知識を授け、常に知的好奇心を以て研究に取り組む姿勢を涵養しなければならない。そのために多岐にわたる系統的な科目を設置する。 (2) 専門的知識ばかりに偏ることなく、関連分野の広範な知識をも体得して客観的視野を広げ、研究に幅と客観性をもたらすべく他専攻の科目の履修を認める。 (3) 欧米文化研究方法論を1年次の必修とすることで、修士論文の執筆に向けて研究の仕方の基本を学ばせる。 (4) 学生の研究指導に当たっては、指導教授のほか副指導教授を置くことで、異なった観点からの指導を推進し、学生の研究の視野を広げ豊かにする。 (5) 必修と選択の科目の履修以外に、自国の歴史的文化に関する自主的学習を合わせて行うことを勧奨し、自己の立脚点を堅固なものとするとして、欧米文化を一層深く探究できる指導体制を取る。 <p>【博士後期課程】</p> <p>文学研究科欧米文化専攻博士後期課程では、教育課程の編成と実施方針を以下の通り定めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 思想、文学、言語学の各分野において、修士課程での研究の深化と、関連の教養的知識の蓄積を前提にして、さらに高度な専門知識を教授し、きめ細かな指導の下に論文作成への手引きをする体制を整える。

愛知大学 3つのポリシー (2021~2023年度)

(2) 一見類似したものの中に相違を、一見遠い関係のものの中に近似性を認知できるような批評精神を、専門分野以外の事柄にも及ぶ広汎な探究を通して養成する。

入学受入方針 (アドミッション・ポリシー)

【修士課程】

文学研究科欧米文化専攻修士課程では、以下の通り入学受入方針を定めます。

- (1) ヨーロッパとアメリカの文化一般を、思想・文学・言語学の各分野で幅広く研究を行う意思を持つ人。
- (2) 欧米の文化の諸相をその歴史を通して相対的に究明し、それを礎にして教育的実践や新たな文化の発展に寄与し得る潜在能力を持つ人。
- (3) 本専攻進学に先立つ条件として、学部教育における一般教養と専門的知識を十分備えていなければならない。
- (4) 欧米の原典を読むに先立って、相応の外国語能力を持っていることを条件とする。

【博士後期課程】

文学研究科欧米文化専攻博士後期課程では、以下の通り入学受入方針を定めます。

- (1) 欧米の文化一般の幅広い知識を備えていることを前提とし、さらに専門的研究を深めていく強い意志を持っている人。
- (2) 客観的な批判と分析に基づいた論理的思考により、研究対象を体系化し得る潜在能力を持っている人。
- (3) 指導的立場に立って文化創造をしたり、教育職や研究職に就く堅い意志を持つ人。